



令和2年12月15日
第840号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0001 東京都千代田区千代田一丁目九段南一丁目
千代田会館三階
電話 03-3261-5521
00160-6-25389
電報 160160
編集 毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

終戦75年を記念して

全国戦没者慰霊祭挙行

終戦七十五年の年を後一カ月半残す十一月十六日、本会は水落敏栄会長以下副会長、専務理事、常務理事、監事が全国の戦没者遺族を代表して靖国神社に参集し「終戦七十五年全国戦没者慰霊祭」を挙行した。先の大戦で戦没された二百四十六万余柱の英霊に尊崇の誠を捧げ、世界の恒久平和を構築するため、一層精進して行くことを誓った。

先の大戦が終結して七十五年となる今年、本会はこれを記念して、全国の戦没者遺族の代表者に参集願「終戦七十五年全国戦没者慰霊祭」を執り行うことで準備を進めていた。

十一月十六日午前十一時、マスクを着用した正副会長他役員らは、靖国神社拝殿の耐震工事により中庭に架設されたテント内に着席し、慰霊祭が開始された。はじめに国歌君が代が流れる中、飛沫防止のため心の中で斉唱。神官による修祓のお祓いを受けたのち、御本殿に昇殿した。献饌の儀の後、齋主が厳かに祝詞を奏上した。

次に水落会長が祭文(同面に掲載)を奏上、二百四十六万余柱の英霊に対し「現在、新型コロナウイルスが猛威を振るう未曾有の危機に直面している。遺族会活動も思うに任せない日々ですが、恒久平和への歩みを止めることのないよう、

しかし、新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たないことからやむなく、本会の正副会長

が全国の戦没者遺族を代表して慰霊祭を執り行うこととした。十一月十六日午前十一時、マスクを着用した正副会長他役員らは、靖国神社拝殿の耐震工事により中庭に架設されたテント内に着席し、慰霊祭が開始された。はじめに国歌君が代が流れる中、飛沫防止のため心の中で斉唱。神官による修祓のお祓いを受けたのち、御本殿に昇殿した。献饌の儀の後、齋主が厳かに祝詞を奏上した。

出来ることを重ね、粘り強く活動してまいりませう」と決意を述べた。その後、水落会長が戦没者遺族を代表して玉串を奉奠し、会長に合わせ英霊に冥福を祈り、黙禱を捧げ慰霊祭は無事終了した。

陳情運動の方針決定

年末の予算編成に向けて

本会の諸会議については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面決議や中止等を余儀なくされていたが、十一月十六日東京・靖国会館で今年度初の常務理事会を開催した。

会議では、英霊顕彰や処遇改善の経過並びに運動方法、令和二年度上半期収支決算書、本会役員等の意見書の方法並びに叙勲・褒章及び表彰を受けた者に対する内規の改正案についてそれぞれ

第65回 奉納菊花展

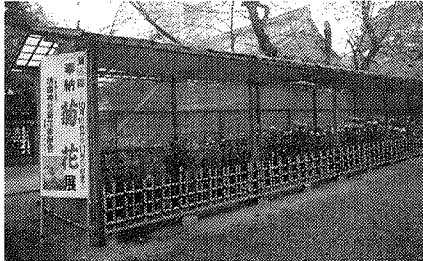
靖国神社において第六十五回奉納菊花展が十月十六日から十一月五日にかけて開催された。

謹 哀悼

塚越重吉氏 日本遺族会元評議員・埼玉県遺族連合会前副会長。十一月二十一日、逝去された。八十三歳。葬儀は埼玉県大里郡寄居町の自宅で行われた。喪主は長女千恵子氏。

支部長交代

熊本県遺族連合会 横田 輝雄氏 (十月三十日付)



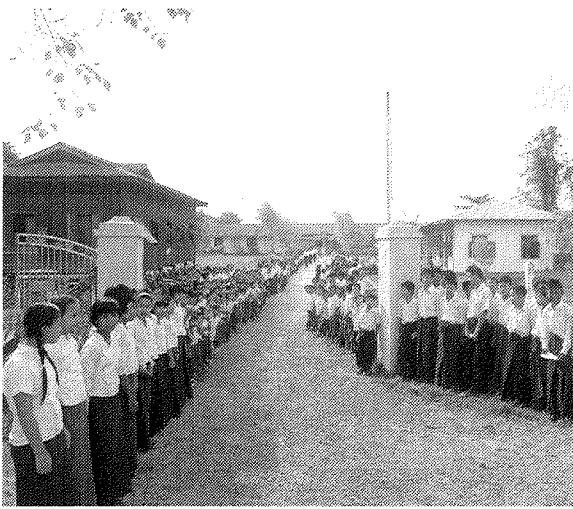
祭文

この靖国神社の敷地において、一般財団法人日本遺族会主催「終戦七十五年全国戦没者慰霊祭」を執り行なうにあたり、本会を代表して、二百四十六万余柱の英霊に、謹んで祭文を奏上いたします。願ひますれば、昭和二十一年八月十五日、我が国は敗戦、占領という存亡の危機に際会しました。魚土化に我が国への占領政策は厳しく、神道指官により、靖国神社は国家との関係を断ち、戦没者遺族の精神的な拠りどころを失わせたばかりでなく、恩給、公務扶助料が打ち切られることとなり、戦没者遺族は物心両面にわたり、完膚なきまでの打撃を受けたのであります。

声なき声

令和2年の新年は、56年ぶりに東京において夏季五輪、そして、ハラリンピックが開催される喜びと、期待に胸を膨らませ明けた。しかし1月16日に日本人初の新型コロナウイルス感染者が公表され、2月3日には、新型コロナウイルスス罹患者を乗せたクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号が横浜港に入港。以後、国内におけるすべての活動に影響したことは言うまでもなく、いまだ医療従事者の方々には未知の病に立ち向かわれ、昼夜を問わず、患者の早期回復に努められている。唯々感謝、感謝である。是非、日本でも一日も早くワクチンがでることを期待する。単身高齢者が住まいを借りられなかったり、入院や介護施設への入所を断られたりして「漂流」するケースが相次いでいると聞く。身元保証人がなく、家賃、費用の滞納や孤独死のリスクを敬遠されるためだという。核家族化や少子化が進み、人生の終盤には「おひとりさま」になりうる時代がぞぞと来ている。65歳以上の単身高齢者は増加傾向にあり、令和22年には900万人近くに達する見込まれており、国による支援が求められる。新型コロナウイルス感染症対策に明け暮れた年もあと僅か、くる年がご遺族皆様にとり、より良い年であることを祈ります。(M)

新年のお参りは 靖国神社へ 神恩感謝・国家安泰・家内安全など 特に正月三日は 多くのご参拝が予想されます。 混雑を避けてお越しください。 令和三年 初詣 FIRST SHRINE VISIT 靖国神社社務所 電話 03-3261-8306(内) 公式ホームページ https://www.yasukuni.or.jp/ 靖国神社



ペグーのカドウィンチャン小学校

ミャンマー(旧ビルマ)小学校修繕募金のお願い

日本遺族会では、ミャンマー(旧ビルマ)に建設贈呈した小学校の修繕費用について寄附金を募っております。

先の大戦で、18万の将兵が散華されたミャンマー(旧ビルマ)の子供たちのため、平成11年度より3年計画でヤンゴン、アキャブ、ペグー市内に三校の小学校を建設し、竣工贈呈をいたしました。

建設から二十数年が経過し、校舎等も老朽化が進んでいることから本会では、令和2年度事業計画で社会奉仕活動の推進として、この度小学校の修繕費用を募ることとなりました。

関係ご遺族をはじめ、広くご遺族の皆様からのご支援とご協力賜りますよう、お願いいたします。

募金単位は、1口三千円から。

銀行名:三井住友銀行 神田支店 口座番号:当座預金1015126
口座名:一般財団法人 日本遺族会(ザイ) ニホンイゾクカイ

大臣表彰は、昭和四十一年五月に第一回目の授賞が行われ現在に至っているが、今年度は、現下の新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、表彰式は開催しないこととなった。

2年度援護事業功労者 本会関係 41支部104人が受賞

厚生労働大臣表彰
厚大生働

令和2年度の援護事業功労者に対する厚生労働大臣表彰が発表され、多人数が受賞。このうち日本遺族会関係者百四人が栄ある受賞に輝いた。今年度は現下の新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、表彰式は開催しないこととなった。

- が、今年度は、現下の新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、表彰式は開催しないこととなった。
- 表彰された本会関係者は次の通り。(敬称略)
- 【北海道】谷秀紀、森見一、鎌田利道、須藤勝雄、青森県 竹村弘、笹木孝雄、成田善彦、若手県 宮本忠一、菊池源悦、稲石泰之、【秋田県】草苺、鷹井県 田中祐一、総三二
- 【鳥取県】菅原孝太郎、宮城県 佐藤昭雄、【福島県】佐藤武継、寺内重男、【山形県】佐々木長男、佐藤一廣、鈴木廣、【東京都】島崎恵子、森洋子、羽生沢常男、【神奈川県】飯田恭久、富永正敏、榮貴代、【埼玉県】堀切十四男、萩原孝、水口忠彦、【茨城県】本多幸一郎、宮本亮、山崎均、海藤清治、【静岡県】長谷川定夫、松井蓉子、近藤伊織、【群馬県】小林敏男、【栃木県】永嶋静江、【石川県】堀田敏友、中田美紀子、森脇位泰、【福井県】田中祐一、総三二
- 【高知県】濱野孝司、山代裕始、勝部昇、【岡山県】水谷人見信一、坂根弘子、小椋章光、近藤紀男、【広島県】山手澄枝、【山口県】大川勝也、【香川県】崎川具増田勝子、堤徹郎、【徳島県】伊勢昭、緒方和子、近藤年江、【愛媛県】松原彌一、梶本壽美子、福本勇、【高知県】山添裕一、酒井義明、【福岡県】奥田美房、緒方士郎、近藤絃一、三原孝子、【佐賀県】
- 【鳥根県】濱野孝司、山代裕始、勝部昇、【岡山県】水谷人見信一、坂根弘子、小椋章光、近藤紀男、【広島県】山手澄枝、【山口県】大川勝也、【香川県】崎川具増田勝子、堤徹郎、【徳島県】伊勢昭、緒方和子、近藤年江、【愛媛県】松原彌一、梶本壽美子、福本勇、【高知県】山添裕一、酒井義明、【福岡県】奥田美房、緒方士郎、近藤絃一、三原孝子、【佐賀県】

令和2年度の援護事業功労者表彰を受けられた皆様へ

この度、令和2年度の援護事業功労者として、晴れの表彰を受けられた皆様へ心からお祝い申し上げます。

皆様には、長年、それぞれの地域社会において、戦没者の御遺族、戦傷病者の方や、あるいは中国等から帰国された方々からの相談に御対応いただき、温かい御支援の手を差し伸べていただきました。また、戦没者の慰霊事業への御参加、戦中戦後の労苦の継承など、援護事業に対し、様々な形で御力を添えていただきました。ここに、皆様の御功績に対して、深く敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

今、私たちが享受している平和と繁栄は、多くの方々の尊い犠牲と並みならぬ御苦労の上に築かれていることを、私たちは決して忘れません。今後とも、国の果たすべき重要な責務として、援護事業の推進に努力してまいります。

政府として、援護事業を着実に進めていくために、皆様には、今後とも、これまでの豊富な経験と知識を活かし、なお一層の御尽力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本来ならば、表彰式において直接御挨拶を申し上げますところ、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、皆様の安全を第一に、今年度の開催は見合わせることにいたしました。何卒、事情を御察察の上、御理解賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の御功績に対して、重ねて厚く御礼申し上げますとともに、今後ますますの御多幸を心からお祈りいたします。

令和2年12月
厚生労働大臣 田村憲久

岡山で青年部結成される 全国組織が37支部となる

岡山県遺族連盟で青年部が結成された。

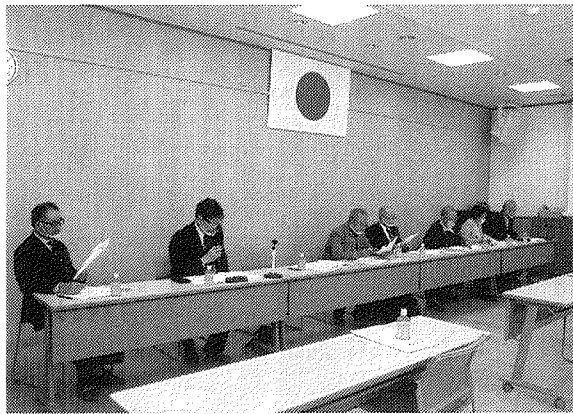
十一月十五日、岡山県護国神社の「いさお会館」会議室で青年部会議が開催された。

はじめに、青年部員の中から江本公一氏が青年部長に選出され、議長に就き議事に入った。

会議では、令和2年度岡山県遺族連盟で青年部(案)として、護国神社、忠魂碑等の護持、慰霊研修事業及び全国戦没者追悼式への孫・曾孫の参加促進等の英霊顕彰事業、青年部会議や研修会の開催、孫・曾孫等の入会の促進等の組織強化事業などに関する具体的な青年部の活動について審議された。

また、組織の後継者としての目的を定めた青年部規約に基づいて、戦没者の孫・曾孫等の青年部への入会を促進していくことが確認された。

今回の岡山県での青年部結成で、全国の青年部組織は三十七支部となる。



議事を進行する江本公一青年部長(左から2人目)
=11月15日、岡山県護国神社で

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報(「個人情報保護法」の定め)に則り、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

日本遺族通信 年間定期購読のお知らせ

毎月、お手元までお届けする年間定期購読です。戦没者の英霊顕彰(遺骨収集、慰霊友好、慰霊巡拝)、遺族の処遇改善等々の遺族関係の情報を掲載しておりますので、是非、この機会にお申し込みください。次世代を担う青年部(孫・ひ孫)の皆様も是非お申し込みを。

年間購読料/1,560円 (1年間12回 税金・送料込)

お申込み
日本遺族会事務局 ☎03-3261-5521

▼常務理事会 11月16日
①英霊顕彰・処遇改善運動の経過並びに今後の運動方法②令和2年度上半期収支計算書③一般財団法人日本遺族会役員等の用意舞の方法に関する

▼監事会 11月17日
①令和2年度各会計等上役員等で叙勲・褒章及び表彰を受けた者に対する祝金等に関する内規の改正(案)について。

祝 辞

この度、晴れて令和2年度援護事業功労者厚生労働大臣表彰の栄に浴せられた皆様へ、衷心よりお祝いを申し上げます。

皆様には長きにわたり、戦没者遺族あるいは戦傷病者など戦争犠牲者の援護救済と福祉の向上にお力を尽くされました。皆様の献身的なご活動に敬服いたし、ここに深謝申し上げます。

皆様のご尽力と関係当局のご配慮により逐年援護施策も充実し、戦争犠牲者の方々の多くは、ようやく安定した生活を営むことができるようになりました。

しかしながら、戦争犠牲者の方々の高齢になられましたのでどうか引き続き、お力添え賜りますよう、お願い申し上げます。

終戦から七十五年が経過し、戦後生まれが社会の大半となり、戦争の記憶は風化する一方で、世界では紛争が絶えず悲しみは繰り返されています。

今日の我が国の平和と繁栄は、ひたすら祖国の安寧と家族の幸福を願った多くの方々の犠牲のうえに成り立っていることを、決して忘れることなく、二度と戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、戦争の風化を防ぎ、平和の尊さを後世に語り継ぐため一層の努力を重ねていかなければなりません。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止に配慮し、表彰式が中止されましたことは、誠に残念でなりません。本来であれば、皆様に直接祝意をお伝えするところでございますが、書面でのご挨拶に代えさせていただきますこと、ご理解賜りますようお願いいたします。

結びに、受賞されました皆様のご健康とご多幸を心から祈念し、祝辞といたします。

令和二年十二月
一般財団法人 日本遺族会
会長 水落敏栄

JARRWC

硫黄島で16柱収集

壕内等で掘削作業に従事

日本戦没者遺骨収集推進協会（JARRWC）主催による硫黄島戦没者遺骨収集派遣団（第三回派遣）が十一月十七日から十二月二日の期間で派遣され本会からは今回も三人が参加協力し、硫黄島の壕等で収集作業に従事し、十六柱を収集した。前回同様新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うPCR検査を受けての陰性反応者の派遣となった。

日本戦没者遺骨収集推進協会主催による硫黄島戦没者遺骨収集派遣団（第三回派遣）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として過去二回収集とはほぼ同様な措置とした。派遣者の規模を縮小し、PCR検査を受けて陰性反応者のみを派遣者とした。

遺の継続となる島北部の天山慰霊碑の下部付近の地表や壕、為八海岸上部の地表や壕等、重機を使用するなどして掘削しながら作業を進め、天山付近と為八海岸付近から十六柱を収集した。

また、今回収集されたご遺骨は年明けの一月予定の（第四回収集）最終派遣時に東京・千鳥ヶ淵

戦没者墓苑で遺骨引渡し式が行われ、戦没者遺族が参列のもと厚生労働省職員に引渡され同省霊安室に仮安置される予定である。



壕内で熱心に掘削作業を行う団員ら

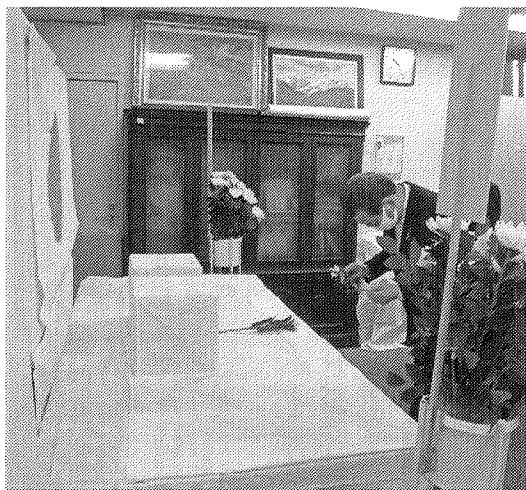
保管された2柱が帰還

ハワイ受領遺骨拝礼で

十一月三十日、午前十一時三十分から厚生労働省

行われた。拝礼式には、日本遺族会を代表して水落敏栄会長が参列し、帰還した戦没者のご遺骨二柱に対し拝礼し、献花した。今回帰還した遺骨は、

キリバス共和国（ギルバート諸島）のタラワ環礁で収容され、米国DPA（米国防務省）で管理されていた。その後、日本及び韓国に対して検体が提供され、日米韓の専門機関が身元特定のためのDNA分析等を行っていたところ、日本人遺族との間に血縁関係があるとの結果が得られた。



帰還された遺骨に献花する水落敏栄本会会長=11月30日、厚生労働省で

今後の遺族会を考える 特別委員会報告書 第四回 掲載

前号より続く

本紙十二月号では、残り二つの事項（④組織対策、⑤昭和館の運営）について紹介する。

組織対策では、本会の存続に関わる、極めて重大な問題である「後継者（青年部）組織の確立」等について審議した。

組織の中核である戦没者遺児も高齢化が顕著となるなか、後継者である青年部組織の確立、育成は喫緊にして最大の課題である。本部、支部と連携を一層密にし、青年部組織の強化を図らなければならない。

1. 組織の確立
①青年部の組織化
②遺族会の後継者問題は、会の存続に関わる極めて重大な問題である。女性部の提言により組織化された青年部は、現在（令和二年三月）三十六支部となった。引き続き、

戦没者の孫、ひ孫、甥、姪等の加入促進を図る。②女性部は、引き続き青年部の組織化に努める。都道府県支部において青年部を結成した支部は、市区町村遺族会にも青年部組織を結成するよう努力する。

2. 後継者の育成
青年部員、新規加入者に対して、各種行事の手伝いや会合等へのオブザーバー参加、親睦事業やボランティア活動等、魅力的な活動の場を提供し、これらの経験を通じて各地域のリーダーを育成し、指導層を形成する必要がある。老壮青一体となり、後継者の育成に努めなければならない。

③戦没者の孫、ひ孫、甥、姪等に対して、青年部員に加入されるよう促す。④転居遺族の加入の道を検討し、郷里を離れている戦没者遺族が現居住地および郷里いづれにおいて遺族会に入会する方途と参加できる活動を検討する。

⑤女性部は、青年部の組織化など遺族会活動への貢献度が高いにもかかわらず男性に比べ役員への登用が少ない。女性遺児の声を遺族会活動に反映させるためにも後継者として育成し、支部の幹部・役員への登用の道を拓く。

⑥青年部は、事業の柱となる七つの目標（①慰霊碑の整備（各追悼式への参加）②慰霊巡拝への参加③遺骨収集への参加④OB・BON・ソサエティと連携し、戦争遺品の販売禁止と遺品の返還を求める⑤SNSを活用しての世論喚起（語り部の継承））により判明した周辺在住及び県外在住の遺児、戦没者の孫、ひ孫、甥、姪等の追跡調査をする。

⑦特別弔慰金の手続きの起し、青年部と共に活動することによって組織が継承されるよう努力する。⑧広報活動

青年部を企画させ、徐々に運営を任せることにより、後継者、指導者としての自覚を育む。

③「慰霊友好親善事業参加者」
慰霊友好親善事業参加者による緩やかな組織を作り、親睦事業やボランティア活動等を通じて仲間意識を強め、各都道府県遺族会がこれを積極的に支援協力する中で、各地域のリーダーを育成する。

④実態調査の実施と名簿の整理
遺族会員等を通じて、身内及び地域周辺の遺族の調査を引き続き行う。また、会員名簿の整理に努める。

⑤女性部員、青年部員を通じて行われた実態調査により判明した周辺在住及び県外在住の遺児、戦没者の孫、ひ孫、甥、姪等の追跡調査をする。

⑥特別弔慰金の手続きの起し、青年部と共に活動することによって組織が継承されるよう努力する。

⑦特別弔慰金の手続きの起し、青年部と共に活動することによって組織が継承されるよう努力する。

⑧広報活動
①地方公共団体の広報紙やホームページを通じて、活動への参加を呼びかける。

②遺族会の機関紙やパンフレットの作成、さらには、SNSを通しての活動への参加を呼びかける。

③本会役員定数の見直し
平成二十五年の一般財団法人への移行登記にあたり、本会役員定員数を見直し今日に至っている。

平成二十五年の一般財団法人への移行登記にあたり、本会役員定員数を見直し今日に至っている。

ミャンマー小学校 修繕募金のお礼

本紙（二面）でもお願いしているミャンマー小学校修繕募金につきまして、ご賛同いただきました。お礼申し上げます。

本紙（二面）でもお願いしているミャンマー小学校修繕募金につきまして、ご賛同いただきました。お礼申し上げます。

本会への 賛助金のお礼

本紙（同面）でもお願いしている本会への賛助金につきまして、ご賛同いただきました。お礼申し上げます。

本紙（同面）でもお願いしている本会への賛助金につきまして、ご賛同いただきました。お礼申し上げます。

日本遺族会への賛助金のお礼

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

郵便振替 0013002694929
みずほ銀行 九段支店 普通預金 00880900
※口座名は「一般財団法人日本遺族会」です。二ホインソフカイ

巡回特別企画展を開催 鳥取県で四、七一一人が来場

昭和館

昭和館で毎年実施している巡回特別企画展が、十月二十四日(土)から十一月三日(火)まで鳥取県立博物館第三展示室で開催された。「くらしにみる昭和の時代 鳥取展」と題された今回の展覧会では、開催地の鳥取県に関連する実物資料・写真・映像等が展示され、四千七百人を超える入場者で賑わいをみせた。

昭和館では、平成十三年から巡回特別企画展が係する写真や実物資料を開催されており、今回で二十八回目の開催となった。会期中、県内各地の遺族会員をはじめ多くの人が来場し、来場者は四千七百十一人にのぼった。

会場では、鳥取県に「高橋春人の仕事」で係する写真や実物資料を交え、約百二十点が展示され、戦争がもたらした苦難や昭和の人々のくらしが紹介された。今回は、三つの特設コーナーが設けられた。九年度のパラリンピック東



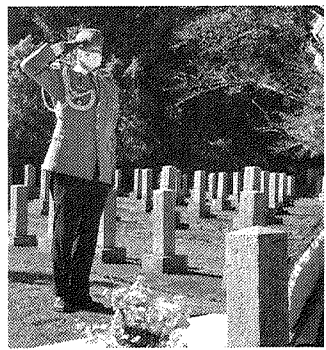
展示資料を見学する来場者
=鳥取市で

変遷をたどるイラストが展示された。映像コーナーでは戦中・戦後の鳥取県に関するニュース映画や、県内在住の遺族の方々の証言映像等が上映された。(問い合わせ先・昭和館学芸部〇三―三三三二―二五七七)

遺族が花を手向ける 大分に眠るドイツ兵の墓で

大分市の桜ヶ丘聖地の(旧陸軍墓地)に、第一次世界大戦で捕虜として収容され亡くなった二人のドイツ兵の墓がある。墓地は百年以上にわたる地元住民により守られており、現在も大分県遺族会連合会が大分県から管理委託を受け、地元有志手地区の協力を得て、草刈りや清掃をして整備を続けている。

十一月十三日、キーゼヴェッター大佐らドイツ大使館の一行が桜ヶ丘聖地を訪れ、大分県、自衛隊関係者はじめ、末光秀夫大分県遺族会連合会会長や墓地の清掃を続けてきた地元住民の人たちも参列し、先祖が眠る墓に花を手向け、冥福を祈った。墓参を終えたキーゼヴェッター大佐は二人のドイツ人の墓を守っていてくれたことに感謝の意を表し、「来年もここに参ることを楽しみにしています」と述べた。また、末光会長は「百年たとうが墓に参りたいという思いは遺族としてよく分かる。これを機に、会の活動も次世代につないでいきたい」と話した。



墓に花輪を捧げ、敬礼するキーゼヴェッター大佐
=11月13日、大分市「桜ヶ丘聖地」で

2県で日章旗等が返還 OBONソサエティ

本会が厚生労働省の委託を受け実施している「戦没者遺留品の返還に伴う調査」事業で、戦没者の遺品の返還運動を推進しているOBONソサエティから本会に照会があった軍事手帳、日章旗

が、山形県、兵庫県のそれぞれ遺族に返還された。山形県では、米岡オハイオ州のジェフ・ブラウンさんが、元米兵の父が戦地から持ち帰り譲り受け保管されていた軍事手帳が、フィリピン・ルソン島で戦死した山形県上山市出身の富塚光雄さんのものであることが判明し、遺族の所在も特定された。十一月二十三日に、上山市戦没者遺族会山口武勇会長、漆山房夫副会長、薄沢地区富塚和彦会長、薄沢地区富塚和彦会長の三人が義理の姪にあたる富塚昭子さんの自宅を訪れ、軍事手帳を引き渡すと、昭子さんは、涙を流して喜んでいた。

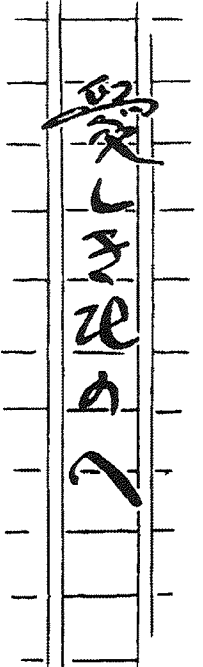
兵庫県では、米岡フロリダ州在住のティオン・ブレイジングさんが元米兵の叔父が戦地から持ち

九段短歌

作品を
お寄せ
ください。

選者 安元 百合子
佐世保市 田中 暁
富士吉田市 荻沼 勝由
甲州市 三森 一雄
千葉市 石橋 嘉子
若くして覚悟の便り綴られし「愛しきものへ」の文の
「慰霊の旅」の文集読めば亡き父への思慕の想いの激
しい(同じ) 上尾市 泉田 照子
朝ドラの「エル」で赤紙届けし人父への赤紙を思い
出したり 熊本市 村橋 久子

雨に覚め夢の涙を拭いたり出征前夜の父に抱かれて
「武士は臆するなかれ」「武士道とは「愛しき者へ」
「慰霊の旅」の文「白いマフラーの少年飛行兵」など日
本の為に戦った雄々しい姿を想い胸をうたれました。
平成七年に上皇后陛下は「戦後五十年遺族の上を思
ひて」との詞書で、次のみ歌を詠まれています。
いかばかり難かりにけむ たづさへて君ら歩みし五
十年の道
その後二十五年の年月は更に重い日々であったので
はないでしょうか。コロナにさいなまれた今年も師走
となりました。お元気で佳いお年をお迎えください。
(選者)



お父様へ

海軍整備兵長 山藤 恵

昭和十九年二月六日
マーシャル諸島にて戦死
山口県山口市大字矢原出身 二十三歳

拝啓 お父様久しく御無音致しましたが、その後お変わりありませんか、お伺ひ申します。

降りて私も元気に軍務に励んでおります故、他事ながら御安心下さい。私もこの度、命に従ひ南方第一線に出ます。いろいろと御相談したい事もありますが、面会する時間ありません。

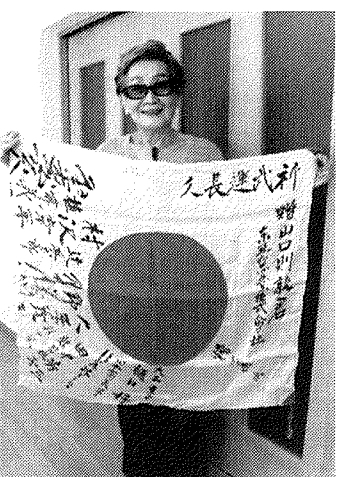
明日十二月七日夜出発致します。さうして来年三月、四月に帰る予定です。また面会する時もある事と思ひます。その日が来るまで御身お大切に

なさいませ。さうして幸多き年をお迎へになることを遠きこの地よりお祈り致します。くれぐれもお体に御注意ください。お願い致します。

十二月六日夜

恵より

お父様へ
【令和二年十二月靖国神社頭掲示】
愛しきものへ



日章旗を受け取った長女の則子さん
=宝塚市の自宅で

とを楽しみにしていま
す」と述べた。また、末
光会長は「百年たとうが
墓に参りたいという思い
は遺族としてよく分か
る。これを機に、会の活
動も次世代につないでい
きたい」と話した。

地方だより

各都道府県遺族会で、実施された大会、研修会等は次の通り。

▼岩手県 10月28日
第64回岩手県戦没者遺族大会(300人)

▼島根県 11月6日
令和2年度沖繩「島根の塔」追悼式(35人)

▼岩手県 11月10日
令和2年度県下遺族会会長・女性部・青年部・事務担当者合同研修会(142人)